



**予防健康づくりの実証事業の
基盤構築に関する調査研究一式**

第1回有識者会議

2021年9月30日（木） 13:00-15:00

事務局：経済産業省（日本総研）・厚生労働省（デロイトトーマツ）

本日のアジェンダは、昨年度の振り返り、今年度の論点、個別実証事業の進捗報告、の3点を予定しております

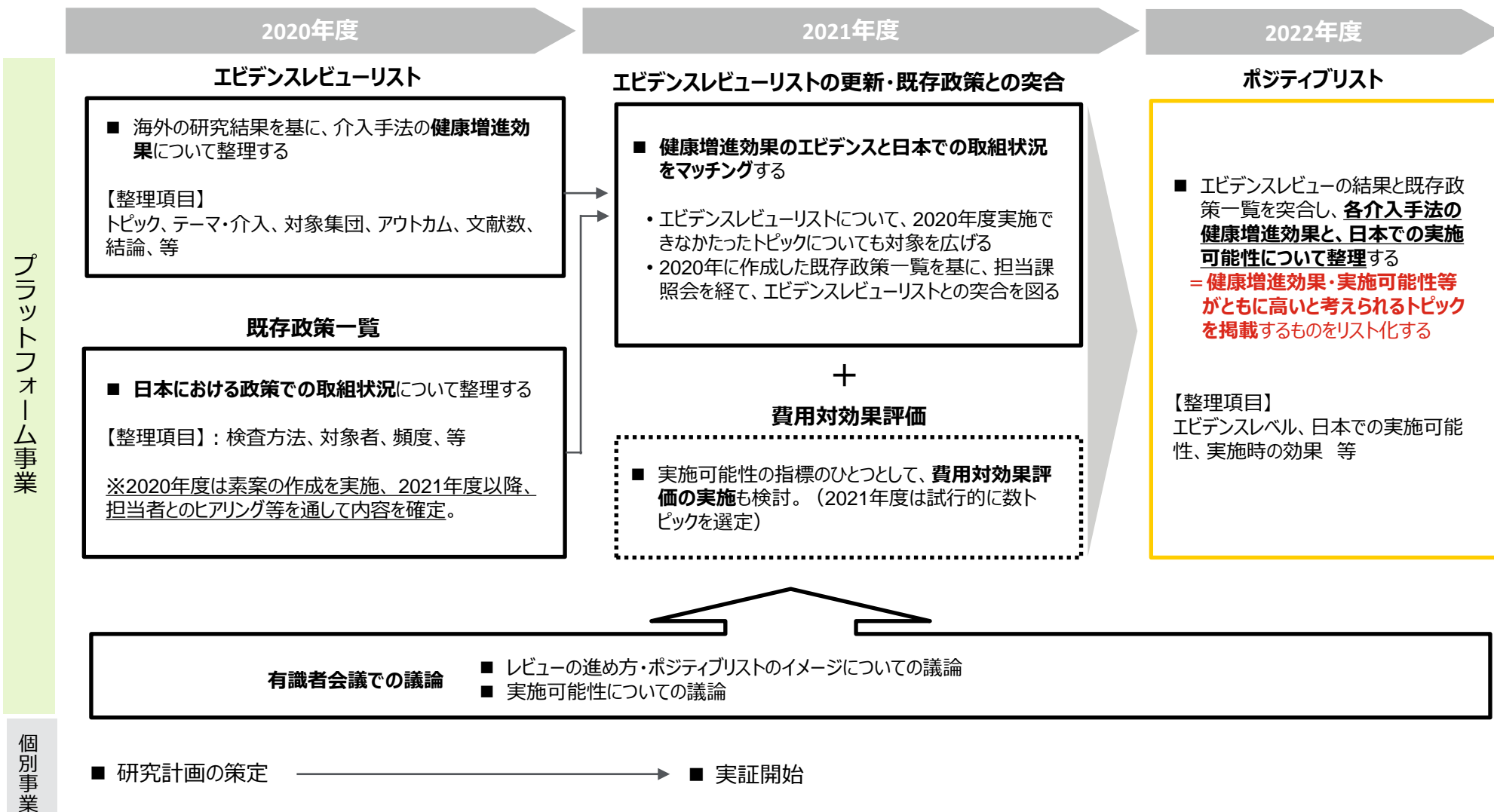
第1回有識者会議のアジェンダ

2021年度の論点	内容	時間配分・備考
挨拶・委員紹介		10分（事務局より） ◆ 津下委員、古井委員、今村委員は今年度よりご参画
昨年度（2020年度）の振り返り	<ul style="list-style-type: none">● 3か年事業の全体像、昨年度の作業内容について振り返り	説明 5分（事務局より）
今年度（2021年度）の論点	<ul style="list-style-type: none">● 今年度の論点について整理● 論点（1）ポジティブリストの作成方法について、事務局内での検討状況をご報告	説明 5分（事務局より） 質疑応答 10分
個別実証事業の進捗報告	<ul style="list-style-type: none">● 個別実証事業について、計画概要と現在の進捗状況についてご報告	説明 80分（質疑応答含め1事業6分、厚労省8事業・経産省4事業） ◆ 各事業の研究実施者・管理事業者については、対象事業の説明時のみ同席可とする。（各省担当者については、常時同席可。）
クロージング	<ul style="list-style-type: none">● 次回の有識者会議について● 実施可能性検討のWG等について	10分（事務局より）

- **昨年度（2020年度）の振り返り**
- 今年度（2021年度）の論点
- 個別実証事業の進捗報告

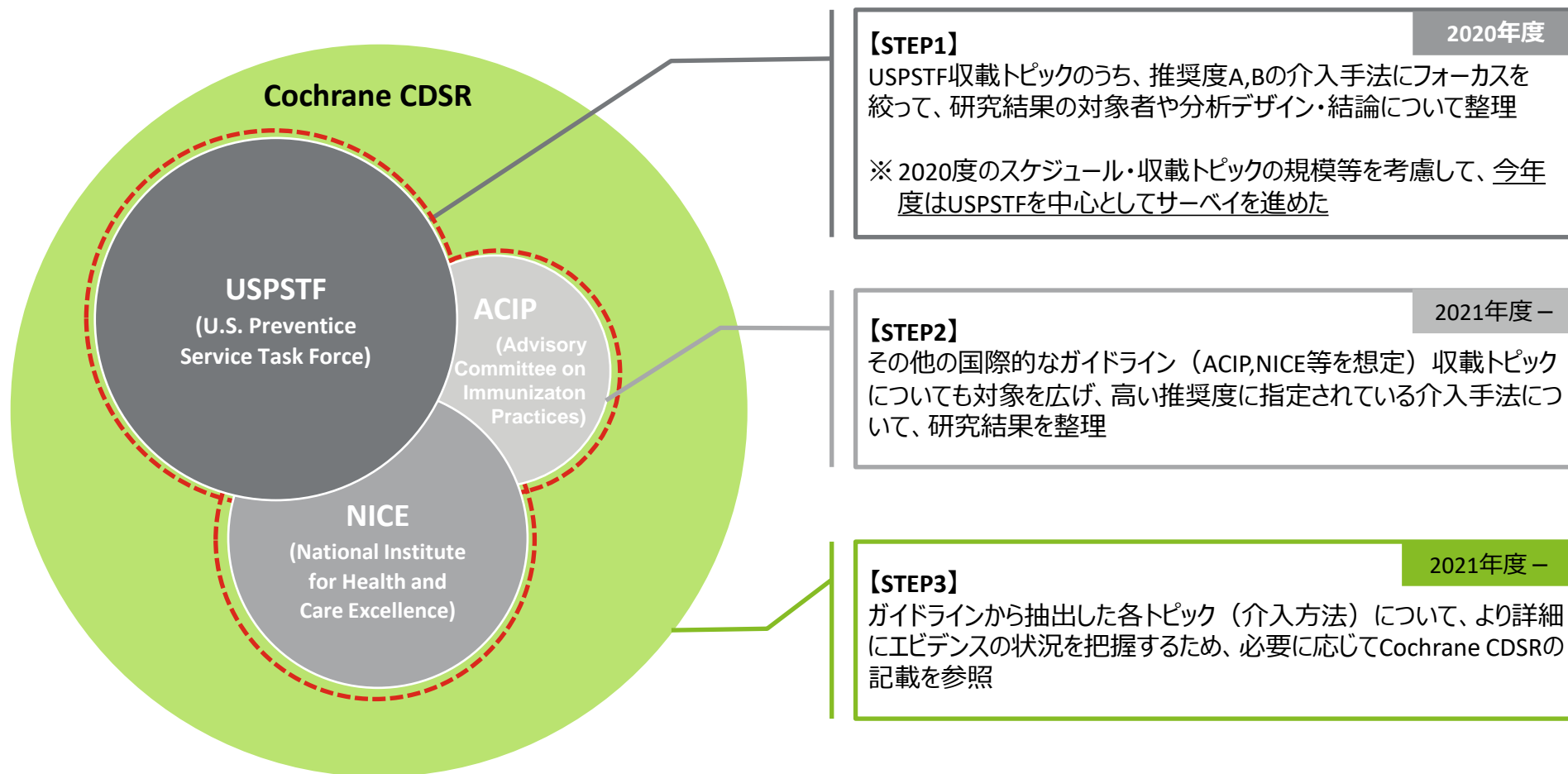
昨年度（2020年度）は、エビデンスレビューリストと既存政策一覧の作業に着手するとともに、実施可能性についての考え方についてご議論いただきました

事業の全体像（3か年）



昨年度（2020年度）のエビデンスレビューは、USPSTFの推奨度A,BとCochrane CDSRを中心に実施いたしました

エビデンスレビューの対象（昨年度想定）



- 昨年度（2020年度）の振り返り
- **今年度（2021年度）の論点**
- 個別実証事業の進捗報告

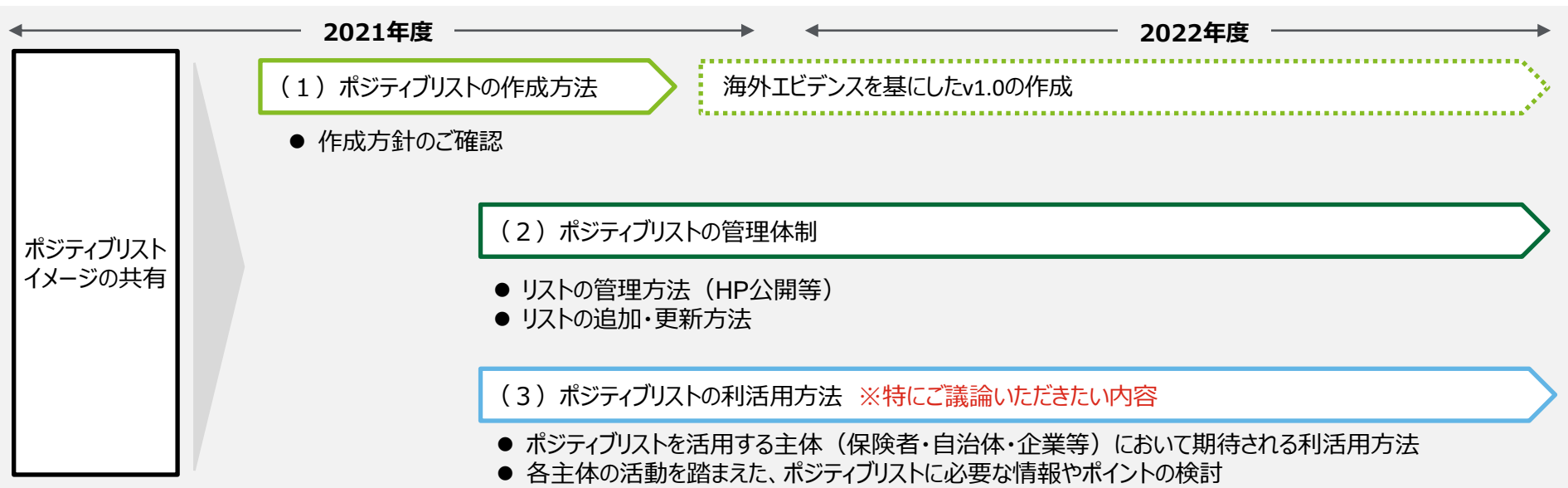
今年度（2021年度）の有識者会議では、特に「ポジティブリストの利活用方法」について、ご議論いただくことを想定しております

ポジティブリストの役割（振り返り）

目的	▶ 予防・健康づくり領域において、 <u>健康増進効果のエビデンスが示されており、日本での実施可能性が高い</u> （または既に実施されている）介入手法を整理する
活用方法	✓ 保険者・企業等の取り組むべき介入手法を検討する際の参考とする（保険者インセンティブや健康経営優良法人認定制度への反映等） ✓ ポジティブリストの社会実装に向けて、ヘルスケア事業者の取組の参考とする。

※2020年度報告書より

有識者会議でご確認・ご議論いただきたい論点



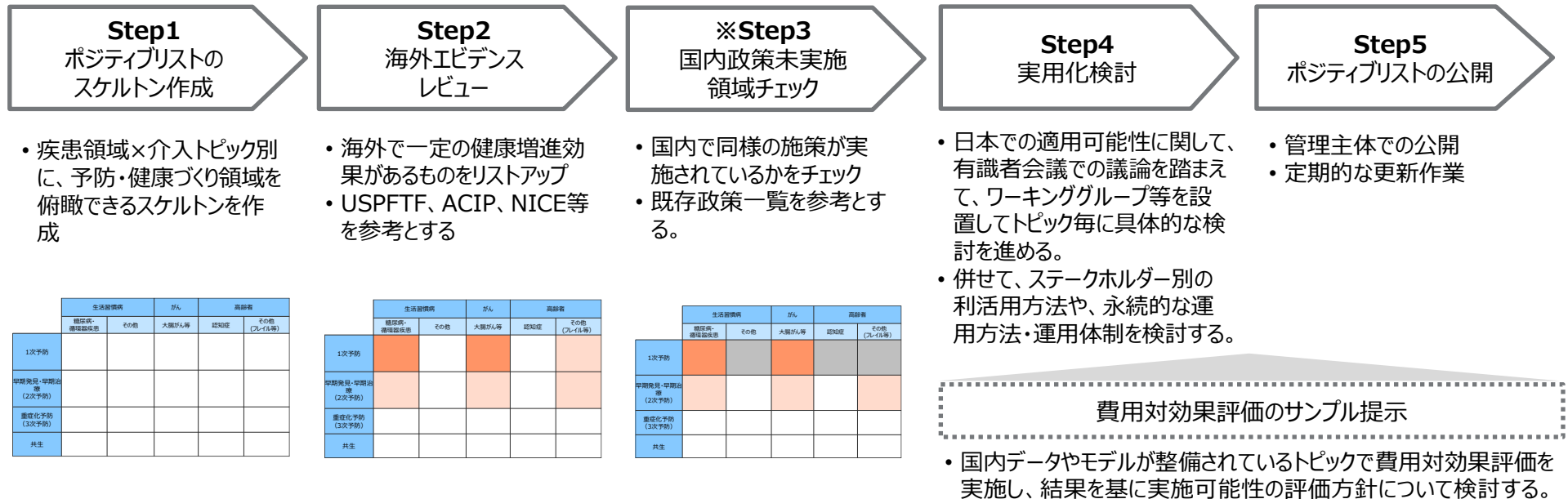
ポジティブリストは、予防・健康づくり領域における健康増進効果エビデンスの状況を整理するべく、疾患領域別のヒートマップとして作成することを検討しています

ポジティブリスト作成の流れ

(1) ポジティブリストの作成方法

(2) ポジティブリストの維持・運用方法

(3) ポジティブリストの利活用方法



※Step3 最終的なポジティブリストのスコープについて

- 対象とするのは、非薬物療法で実施が比較的容易と考えられる介入（運動、栄養による介入等、特殊な機器を不要とするもの）
- 【除外】薬物療法：疾患ごとのガイドライン等において、既にエビデンスの精査がされていると考えられるため。
- 【除外】スクリーニング：健診・検診における検査項目の設定等において、既にエビデンスの精査がされていると考えられるため。


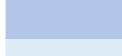
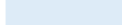
昨年度作成したエビデンスリストを基に、疾患領域×介入トピックでセグメント分けした上で、エビデンスのある領域と既存施策のある領域を整理します

現状、エビデンスのある領域と既存施策のある領域について、幅広にマッピングしています
対象集団や介入手法等の情報を基に、エビデンスの内容と既存施策のマッチングについて、今後精査を進める予定です

ポジティブリスト スケルトンイメージ

※セグメント内数字は、エビデンスレビューリスト（USPSTF）のトピックNo
（トピックNo.が下線付き斜体のものは、エビデンスの対象者が女性に限定されているトピック）

カテゴリ	感染症	性感染症	がん	造血器・免疫	内分泌・代謝	精神	神経系	眼	耳	口腔	循環器系	呼吸器系	消化器系	皮膚及び皮下組織	筋骨格系	泌尿器系	周産期	先天奇形・染色体異常	その他
疾患の例・関連トピック	性感染症を除く				糖尿病	うつ病、依存症	認知症			歯周病、う蝕	虚血性心疾患、高血圧性疾患	喫煙、間質性肺炎			転倒・転落による大腿骨骨折		産後うつ病		
健康教育		32	33			36						29					6.27		
運動・栄養					39						14				11				
自己測定可能なスクリーニング (血糖値測定、血圧測定等)					2						20						<u>28</u>		
質問票等によるスクリーニング			4		24	9.10.36.37		38									<u>12</u>		<u>21</u>
侵襲的または特殊機器を要するスクリーニング (超音波検査、血液検査等)	<u>15.16.17.18.19.34.35</u>	<u>13</u>	<u>5.7.8.23</u>								1	22			<u>25.26</u>		<u>3.30.31</u>		

-  : 推奨度の高い介入があり、国内で施策のある領域
-  : 推奨度の高い介入がある領域（参照元：エビデンスレビューリスト（USPSTF））
-  : 国内で施策のある領域（参照元：健康増進法（健康日本21）、高齢者医療確保法、母子保健法、学校保健安全法、感染症予防法）

昨年度作成したエビデンスリストを基に、疾患領域×介入トピックでセグメント分けした上で、エビデンスのある領域と既存施策のある領域を整理します

USPSTF Recommendationの内容（トピックNo.14）

介入対象	Recommendation	Grade
循環器リスクを有する成人 <small>Adults with cardiovascular disease risk factors</small>	USPSTFは、循環器リスクを有する成人に対し、健康的な食事と身体活動を促すための行動変容介入を行うことを推奨する。 <small>The USPSTF recommends offering or referring adults with cardiovascular disease risk factors to behavioral counseling interventions to promote a healthy diet and physical activity.</small>	B

Step1 Step2 Step3	介入手法	<ul style="list-style-type: none"> Face-to-faceでの介入をベースに、電話やウェブ等での追加介入を行う *介入手法による効果の違いは言及無し
	介入量	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究における介入回数の中央値は12回（範囲：5～27回）であり、12カ月（範囲：6～18カ月）にわたって、計6時間（範囲：2.1～16.5時間）の介入を行っている
	行動変容の手法	<ul style="list-style-type: none"> 食事や身体活動、減量に関するゴール設定、自己モニタリング、動機づけ面接
	介入主体	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究ではプライマリケア医以外が多く、看護師、栄養士、理学療法士、カウンセラーなどが介入している
	食事に関する行動変容の目標	<ul style="list-style-type: none"> 飽和脂肪酸、ナトリウム、糖質、砂糖の摂取量を減らす 野菜、フルーツ、全粒穀物、オメガ3脂肪酸、魚の摂取量を増やす 地中海食を接種する
	運動に関する行動変容の目標	<ul style="list-style-type: none"> 週に90分～180分の中強度の運動を行う
	便益	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な食事と身体活動を促すための行動変容介入は、心筋梗塞や脳卒中等の循環器疾患のリスクを減らすことに対する十分なエビデンスが蓄積されている
リスク	<ul style="list-style-type: none"> 行動変容介入のリスクに関する直接的なエビデンスはほとんど存在しない 	
Step4	国内での適用における留意事項	<u>（トピック・介入ごとにWG等で個別に検討予定）</u>
Step5	実施によって想定される社会的インパクト	<u>（トピック・介入ごとにWG等で個別に検討予定）</u>
Step5	実施の際の例・推奨される方法	<u>（トピック・介入ごとにWG等で個別に検討予定）</u>

- 昨年度（2020年度）の振り返り
- 今年度（2021年度）の論点
- **個別実証事業の進捗報告**

昨年度から引き続き12件の事業、今年度より「まちづくり」と「メンタルヘルス」の新規事業について、計画策定状況や現在のステータスを管理しています

個別実証事業 一覧

	事業名	担当課
厚生労働省	特定健診・保健指導の効果的な実施方法に係る実証事業	保険局医療介護連携政策課 医療費適正化対策推進室
	糖尿病性腎症重症化予防プログラムの効果検証等事業	保険局国民健康保険課
	AI・ICT等を活用した介護予防ツール等の効果・普及実証事業	老健局老人保健課
	歯周病予防に関する実証事業	医政局歯科保健課 歯科口腔保健推進室
	健康増進施設における標準的な運動プログラム検証のための実証事業	健康局健康課
	食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業	
	がん検診のアクセシビリティ向上策等の実証事業	健康局がん・疾病対策課
	女性特有の健康課題に関するスクリーニング及び介入方法検証のための実証事業（やせ・低栄養）	健康局健康課
	女性特有の健康課題に関するスクリーニング及び介入方法検証のための実証事業（月経困難症）	
	健康にやさしいまちづくりのための環境整備に係る実証事業 (NEW)	
経済産業省	認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業	経済産業省 ヘルスケア産業課
	認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業	
	複数コラボヘルスを連携させた健康経営の効果検証事業	
	メンタルヘルスプロモーションに関する実証事業 (NEW・業者選定中)	